【新二年生用】 古文単語330三訂版 Ｐ２６８～Ｐ２７９

［Ａ］次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 さた
①指図　②道理　③現実　④評判　1 〔　　〕

2 ゆゑ
①様子　②効果　③程度　④理由　2 〔　　〕

3 あらまし
①理想　②計画　③手段　④発端　3 〔　　〕

4 をりふし
①いつもその時　②いつかその時　③同じその時　④ちょうどその時　4 〔　　〕

5 あない
①内情　②先例　③案内　④評議　5 〔　　〕

［Ｂ］次の文の（訳）の〔　　〕に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

6 わが知る人にてある人の、はやう見し女のことほめ言ひ出でなどするも、ほど経たることなれど、なほにくし。（枕草子）
（訳）私の知る人である男が、〔　　〕付き合った女のことをほめたりなどするのも、時を経たことであっても、やはり憎らしい。
①長年　②さっそく　③いつか　④以前　6 〔　　〕

7 世の中の例として、思ふをば思ひ、思はぬをば思はぬものを、この人は、思ふをも、思はぬをも、けぢめ見せぬ心なむありける。（伊勢物語）
（訳）世の中の例として、好きな人を愛し、好きではない人は愛さないものなのに、この人は、好きな人も、好きではない人も、〔　　〕を見せない心があった。
①区別　②本心　③内実　④決着　7 〔　　〕

8 （遊女ハ）人の召しに従うてこそ参れ。左右なう推参するやうやある。（平家物語）
（訳）遊女は人の招きによって参るものだ。ためらわず押しかける〔　　〕があるか。
①こと　②機会　③わけ　④場所　8 〔　　〕

9 宰相の君と二人、物語してゐたるに、殿の三位の君、簾のつま引き開けて居給ふ。（紫式部日記）
（訳）宰相の君と二人で、おしゃべりをしていると、殿の三位の君が、簾の〔　　〕を引き開けてお座りになる。
①裏　②先　③下　④横　9 〔　　〕

10 伊勢の君の、弘徽殿の壁に書き付けたうべりし歌こそは、そのかみに、あはれなることと人の申ししか。（大鏡）
（訳）伊勢の君が、弘徽殿の壁に書き付けなさった歌は、〔　　〕には、しみじみすることだと人は申し上げたことだった。
①その時　②その人　③その割　④その場　10 〔　　〕

11 小松の帝の御母、この大臣の御母、はらからにおはします。（大鏡）
（訳）小松の帝の母上は、この大臣の母上と、〔　　〕でいらっしゃる。
①姉妹　②親密　③同格　④親戚　11 〔　　〕

12 むげにいろなく、いかにのり給ひけるぞ。（今物語）
（訳）まったく〔　　〕もなく、どのようにののしりなさったのだ。
①色恋　②理由　③嫉妬心　④情趣　12 〔　　〕

13 皇胤なれど、姓たまはりて、ただ人にて仕へて、位につきたる例やある。（大鏡）
（訳）天皇の子であっても、名字をいただいて、〔　　〕として仕えて、（天皇の）位についた先例はあるか。
①養子　②親族　③臣下　④大臣　13 〔　　〕

14 こころなき身にもあはれは知られけり鴫立つ沢の秋の夕暮れ（新古今和歌集）
（訳）〔　　〕がない私の身にも、しみじみとした情趣が自然と感じられることだなあ。鴫が飛び立つ沢辺の秋の夕暮れであることよ。
①仏を信じる心　②情趣を解する心　③旅を楽しむ心　④人を愛する心　14 〔　　〕

15 曇りたる空を、つくづくとながめ暮らしたるは、いみじうこそあはれなれ。（枕草子）
（訳）（梅雨のころ）曇っている空を、〔　　〕もの思いに沈んで眺め過ごしているのは、とてもしみじみしたものがある。
①ぼんやりと　②じっくりと　③ぐったりと　④しんみりと　15 〔　　〕

解答

【新二年生用】古文単語330三訂版 P268～P279

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
①	④	②	④	①	④	①	①	②	①	①	④	③	②	④